

2009年度

科目名	哲学		
担当教員	池田 清		
配当	教育3	コード	43060
開期	通年	講時	木曜日3限
単位数	4		
授業テーマ	写真 映画 トラウマ 欲望 無意識		
目的と概要	街にあふれるポスターを見たり、ドラマや映画を観るとき、何が起きているのでしょうか。例えば、新しい商品が欲しくなったり、登場人物に同情して泣いたり、怒ったりします。つまり、メーカーが買って欲しいものや、監督が泣いたり怒ったりして欲しいことに、われわれは反応してしまいます。私の「～したい」という欲望は、私以外の他者の欲望によって自由に操られているということです。私の欲望と他者の欲望はどういう関係にあるのか、これを知ることが授業の概要であり、目標です。		
成績評価法	平常点、本試験から総合的に評価します。		
テキスト	テキストは使用しません。適宜資料を配布しますが、講義ノート中心です。		
参考書	授業中、その都度指示します。		
履修に当たっての注意・助言	哲学の授業を有意義かつ面白いものにできるかどうかは、皆さんにかかっています。積極的に授業に参加して下さい。		
講義計画			
<p>◎ 哲学は、訳の分からない難しい～理屈でもなければ、現実離れた抽象的な言葉遊びでもありません。実は、日常生活の中で「どういう意味何やろ?」、「何でなんやろ?」と思った時に、もうすでに哲学の世界に一歩足を踏み入れているのです。われわれは、映画を見たり、写真を見たり、また夢を見たりしていますが、こうした日常的な経験の中で何が起きているのでしょうか。何で、ドラマを観て、泣いてしまうのでしょうか。授業では、映画や写真などの映像を見るということは、どういう経験なのかを問題にしなが、その経験を可能にしている様々な要因を洗い出し、くわえて、これまでの哲学史上のテーマ・考え方・概念などを紹介していきます。その場合、重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。この日常生活への反省からすべてが始まります。</p> <p>1 見ることの複雑性 ものを見る＝写真を見る＝映画を観る＝夢を見る  2 フロイト的見方 無意識が見る  3 メルロ＝ポンティ的見方 身体が見る  4 デカルト的見方 私が見る  5 バルトの写真論 安心する写真と不安になる写真  6 ソシュールの構造言語学  7 デノテーションとコノテーション  8 写真のパラドクスと無意味さ  9 メッツの映画論 映画のフィクション性  10 映画のリアリティ  11 感情移入と精神分析的転移  12 ラカンの鏡像段階理論と自我の分裂  13 「羊たちの沈黙」鑑賞  14 「羊たちの沈黙」鑑賞と試験対策  15 まとめ  16 映像＝単語説 映画と言語の類似性  17 言語とモンタージュ  18 映像＝単語説批判  19 同一化理論と精神分析  20 フロイトのエディプス・コンプレクス  21 同上  22 ラカンのエディプス・コンプレクス  23 同上  24 同一化のまとめ  25 ラカンのシェーマL  26 同上  27 フロイトの「エマの症例」研究  28 無意識の在り処  29 試験対策問題  30 まとめ</p>			